

会場で直接いただいた質問による質疑応答の概要

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

質問 1 1号機と7号機を中心に点検すると約束していたのに、進んでいるのは7号機のみというのはなぜか。

回答：点検・評価計画書の提出は1号機と7号機が最初でした。作業員の数などの都合もあり、全号機一緒に進めることは難しいですが、順次着手しています。

1号機は定期検査中だったこともあり、水路の切り替えのタイミングあり、7号機に比べて点検が遅れています。なるべく早く点検結果を報告したいと思います。

質問 2 椎谷の亀裂について、示された写真では亀裂があるが、以前見た写真（2005年）には亀裂はなかった。どちらが正しいのか。信用ならない。

ポットホールについても示しているが、他の階段などの遺跡の説明がきちんとついていないし、判断できないのではないかと。

基準地震動を出して耐震強化工事を進めているが、そもそも耐えられる・耐えられないというのではなくて、作り直すべきなのではないのか。

回答：調査結果については国に報告しています。地元の方より椎谷の件についても申し入れがありましたが、追加調査を行ったり、国が現地調査も行っています。

また、他機関のものとクロスチェックを行うなどして、引き続き検討します。そしてよりわかりやすい説明を心がけたいと思います。

椎谷の写真については、亀裂が写っているのは確かで、ねつ造などといったことはなく、写真も他機関提供のものであります。同じ航空写真でも、スケールの違いや、波や太陽などの状況で写り方も変わってきます。当社は少なくとも第三者が撮影した写真を用いて判断しているということについてはご理解いただきたいと存じます。

質問 3 保安院の説明会では、7号機の個々の設備の健全性は確保されているということだった。県の技術委員会のチラシによると、塑性変形した場合の検査の仕方で東京電力は“硬さ測定”を行ったと書いてあった。一部の意見では“硬さ測定”ではわずかな塑性変形の有無を調べるのに疑問があるということだった。保安院の説明で“硬さ測定”は信頼のおける方法ということだったが、どのように考えているか。

回答：いろいろな測定方法がありますが、ひずみが測定できるか実験を行い、その結果で“硬さ試験”が適していました。

私どもの応力解析では、最大も200メガパスカルであり、ひずみがどのくらいになるかはヤング率で割って求めます。そうするとひずみは0.1%になります。この0.1%を硬さ測定

で求めるのは非常に難しい。これは承知しており、県の技術委員会に報告しています。

ではどれくらいなら測れるかということですが、実験の結果、ひずみが2～4%程度であれば硬さ測定により測定可能であり、7号機の場合大きな力がかかった部分も、小さな力がかかった部分も歪みが小さいため測定結果が誤差範囲に収まってしまいました。

質問4 ホームページに掲載されている国のワーキング資料などが不鮮明で読めない。これは資料ではない。

回答：読みにくい、あるいは読めないといったところは、ご指摘の通りです。今後資料等についてはわかりやすい情報提供を心がけたいと存じます。

質問5 7号機が点検や耐震強化など一番早く終わると思うが、早く運転を再開して欲しい。というか現実問題として仕方がない。住民の半数近くは同じ考えだと思う。こういった説明会では、批判的な意見が多く、行きたくても行けない、または行きたくないと思う人がたくさんいる。以前行ったように2人1組で戸別訪問し理解を得るべきではないだろうか。

回答：貴重なご指摘・助言をいただきありがとうございます。今後、よく検討してまいります。

質問6 聞きたいことは3点ある。1点目は点検が全て終了するのはいつなのか。

2点目はこれだけの設備があり、止める・冷やす・閉じ込めることがしっかり行われるようであれば、安全を確認した上で運転再開すべき。環境、特に二酸化炭素の排出量の観点からもそうではないか。

最後に、雇用の確保は大事だと思うが、今後の見通しを聞きたい。

回答：まずは点検・評価計画書に基づき、点検や耐震強化工事を着実に進めていくことが大事だと考えています。7号機では個別の機器の点検はほぼ終了しており、現在は系統機能試験を行っているところもあります。ただし、基準地震動も国や県でまだ議論されている段階で、耐震安全性の解析も残っています。よっていつ点検が終わるという話ができる段階ではありません。こういった状況はあらためてお伝えしてまいります。

質問7 基準地震動が約2,300ガルで、他の600～800ガルのところと比べてはるかに大きい値である。柏崎刈羽は異常であり、ここに発電所を作ってはいけないという証拠だと思う。東京電力はいくつかの大きい値を出して、それに耐えられる・耐えられないという説明をするが、そもそも立地条件としていいのか・悪いのかということに触れず、卑怯だ。

回答：解放基盤表面では大きな揺れの値になっていますが、建物の基礎のレベルになりますと、最大で800ガル程度とそれほど大きな差はなくなります。これは耐震補強等により十分に対応できるレベルの揺れであり、私どもは立地に不適切だとは考えておりません。こういったことをわかりやすいように示していきたいと思えます。